

くじゅうタデ原湿原の動物たち

くじゅうタデ原湿原には、何種類かのほ乳類が生息しています。詳しい一覧表は表1をご覧ください。
今回紹介する動物は、タデ原湿原に隣接するノリウツギの群落林やカヤの草原に生息するネズミ類について紹介します。

森の住人 アカネズミとヒメネズミ

タデ原湿原周辺の林を調査したところ、アカネズミとヒメネズミの生息が確認されました。ネズミというとイエネズミやドブネズミ等の暗く、非衛生的な場所に生息するネズミ類を想像する人が多いかもしれませんが、本来森林や林には、ここで紹介するアカネズミとヒメネズミなどの野ネズミが生息しています。

アカネズミ

アカネズミの大きさは、90～130mmで、尾の長さは70～115mmです。

全体的には、ネズミ色をしていますが、背面の色が少し濃く茶褐色をしています。腹部は、全体的に白色をしています。食べ物は、昆虫、小型のミミズなどの無セキツイ動物、木の実、果実などです。



ヒメネズミ(写真:津田堅之介)

ヒメネズミ

ヒメネズミの大きさは、アカネズミよりひとまわり小さく70～90mm、尾の長さは80～110mmです。体の色は、アカネズミとよく似ていますが、背面の色が黒みを帯びていて黒褐色です。食べ物は、昆虫、小型の無セキツイ動物、木の実、果実などでアカネズミとほとんど変わりませんが、木の上に登って食べ物を探します。アカネズミと大きく違うのは、体の長さに対して尾の長さが明らかに大きいことです。野外で見かける機会があれば、外見より尾の長さを確認することで、この2種を区別できます。

ネズミは森の維持・管理者

アカネズミやヒメネズミが、森の維持に役立っていると聞いてもピンとこない人もいるかもしれません。実は、アカネズミやヒメネズミが食べるドングリについて調べた調査によると大変興味深いことがわかってきました。アカネズミやヒメネズミは、ドングリの実のつまり具合を調べて、中身の詰まっている物を落ち葉の下や巣穴の中に運ぶそうです。そして、ドングリの中に虫の幼虫などが入っているドングリから先に食べるそうです。一方、落ち葉などの下に運ばれたドングリの実は、全部食べられることはないで、翌年発芽してナラやシイの幼木になり、いわゆるドングリ山が維持されていくこととなります。右の写真のナラなどのドングリの木の幼木は、この森に生息するネズミたちによって維持されているかもしれません。私たちがハイキングなどで山に入ったとき、ドングリの幼木を見つけ、近くに親木がない場合は、もしかしてネズミがそこまでドングリを運んできたのかもしれません。



くじゅうタデ原湿原周囲の森(1月)

くじゅうタデ原湿原のほ乳類

くじゅうタデ原湿原の森林部には、アカネズミ、ヒメネズミ、イタチ、テン、ムササビ、タヌキ、イノシシなどが主に生息しています。森林部から草原には、キツネ、ノウサギ、カヤネズミなどが生息し、湿原に隣接している牧草地には、コウベモグラなどがそれぞれ生息しています。

表1. くじゅうタデ原湿原で確認されたほ乳類 (8科13種)

モグラ科	コウベモグラ	イヌ科	キツネ
ウサギ科	ノウサギ		タヌキ
リス科	ムササビ	イタチ科	テン
ヤマネ科	ヤマネ		イタチ
ネズミ科	アカネズミ	イノシシ科	アナグマ
	ヒメネズミ		イノシシ
	カヤネズミ		